

標準委員会 システム安全専門部会 シビアアクシデントマネジメント分科会  
第25回シビアアクシデント マネジメント分科会議事録

1. 日 時 2016年5月11日（水） 13:30～17:30
2. 場 所 原子力安全推進協会 A会議室
3. 出席者（敬称略）  
（出席委員）植田主査（電中研），鎌田幹事（原安進），柴本委員（JAEA），西村委員（電中研），及川委員（東芝），織田委員（日立 GE），黒岩委員（MHI NS エンジ），倉本委員（NEL），藤原委員（テプシス），井田委員（日本 NUS），喜多（松尾委員代理）（東電），竹越委員（関電），山中委員（原電）  
(13名)  
（常時参加者）中川（藤村代理）（四国電力），金沢（規制庁），佐藤（テプシス）  
(3名)

4. 配付資料

- S2SC25-1 第24回SAM分科会議事録(案)
- S2SC25-2 人事について
- S2SC25-3-1 SAM標準改定に係るコメントへの対応一覧
- S2SC25-3-2 AM設定最適化の反映案
- S2SC25-3-3 マネジメントクラス分類フローに関する検討
- S2SC25-3-4 マネジメントクラス分類フローに関する見直しについて
- S2SC25-4-1 リスク情報活用におけるFLEXの考慮（米国の動向）
- S2SC25-5-1 SAM標準の規制要件への補完に関する検討

参考資料

- 参考1 SAM分科会の概要スケジュール
- 参考2 SAM分科会委員及び常時参加者一覧表

5. 議事内容

議事に先立ち，開始時点で委員 16名中13名が出席しており，分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。

(1) 前回議事録確認（S2SC25-1）

鎌田委員より，S2SC25-1「第24回議事録（案）」を用いて，第24回分科会の内容について確認が行われた。確認の結果特にコメントは無く，議事録は正式に承認された。

(2) 人事について (S2SC25-2)

黒岩委員の所属変更について、報告があった。

(3) NEIにおける FLEX の信頼性評価について

鎌田幹事より、「リスク情報活用における FLEX の考慮（米国の動向）」(S2SC25-4-1)にて NEI における FLEX の信頼性評価の概要、及び織田委員より「マネジメントクラス分類フローに関する検討」(S2SC25-3-3)にて NEI における FLEX の信頼性評価を用いた試評価について説明がなされた。

主要な議事を以下に示す。

- ・ NRC の NEI における FLEX の信頼性評価に関する検討は、ワークショップが開かれ NRC と NEI 間で検討が進められている。NRC からは、人的過誤の妥当性等、コメントが出ている。
- ・ FLEX の信頼性評価の前提条件として、FLEX の整備に関する前提（表 1）が示されている。
- ・ FLEX の整備の前提については、全てガイドラインが整備されているのではない。要員の確保（NEI 12-01）のようなもののみである。
- ・ 米国では、このような簡易評価を実施しているが、最終的には PRA へ反映していくことになる。
- ・ この FLEX の信頼性評価と同様な簡略評価は、最初の AM 策定のところで活用し、その後 PDCA を廻して、最終的には詳細な PRA へ AM 策の効果が反映される。最初の入口における概略評価として活用できるのではないか。最初から PRA が詳細に実施できるならその必要はない。

(4) AM 設定最適化の反映案について

黒岩委員より、「AM 設定最適化の反映案」(S2SC25-3-2)及び「SAM 標準改定に係るコメントへの対応一覧」(S2SC25-3-1)に基づき、内容の説明があった。主要な議事を以下に示す。

- ・ 図 X. X-1 において、二重枠の中で決まって最適化されるわけではなく、7.3 の AM の有効性確認の情報も用いられる。このフローはどこで一旦止まるのか明確でない。
- ・ 引用規格としてリスク情報の活用標準を引用しているが、その中で規制基準の準拠は除外している。その理由は、本標準で記載する必要がある。
- ・ 将来においてリスク情報が活用される段階となるゼロベースの議論と、当面の活用として現行規制に S AM 標準をどのように補完して使用していくかという議論がある。この場での議論は、ゼロベースの議論である。
- ・ ゼロベースの議論であるならば、規制基準の準拠を除外して、本来あるべき姿とな

る。

- ・ 附属書XXを本文から引用する位置は、7.2章で適切といえるか。7章全体で読みだすべきではないか。
- ・ AM設定ロジックにおいて、ゼロベースの議論と当面の活用として議論があり、大きな設定ロジックは同じでも、当面の活用として差別化する点を考慮する必要がある。
- ・ AM検討においてPDCAを展開していくが、2順目になれば同じこと繰り返されるのではないかという懸念に対し、最新知見として外部ハザードの視点での脆弱性の抽出であるとか、有効性評価のコードの精緻化に伴う裕度増加など、反映する点が出てくるという意見があった。

(5) マネジメントクラス分類フローについて

鎌田幹事より、「マネジメントクラス分類フローに関する見直しについて」(S2SC25-3-4)について説明が実施された。主要な議事を以下に示す。

- ・ マネジメントクラスの設定において、経済性の指標は必要であるか。仮設定の段階で経済性が成立しないものは、仮設定されていない。
- ・ 経済性で棄却のフローには、違和感がある。資料 S2SC25-3-2 の図XX. 1の資源配分の最適化オプションと経済性の指標は重なるのでないか。
- ・ 資料 S2SC25-3-2 の図XX. 1と資料 S2SC25-3-4 の図2に示す設定フローの見直し版については、記載内容に重複があるため、整理し最適な記載を提案する。
- ・ マネジメントクラス分類フローの見直しで、クラスを下げる記載はあるが、クラスを上げることを考慮しなければならないものがないか確認してほしい。
- ・ 経済性をフローに入れないと、AM策を際限なく追及することになる。低頻度高影響事象のような、影響を考えてクラスを上げるという考え方もある。

(6) SAM 標準の規制要件への補完に関する検討

及川委員より、「SAM 標準の規制要件への補完に関する検討」(S2SC25-5-1)について説明が実施された。主要な議事を以下に示す。

- ・ 自主的安全性向上であっても、リスク低減効果が大きいものは、設置許可又は工事認可申請の対象となる可能性があり、その場合には管理に対するSAM標準の内容が適用できないことになる。自主的安全性向上の対策が、どのような場合に許認可の対象となる可能性があるかどうか、公開情報を基に調査する。
- ・ 自主的安全性向上の対策が、許認可の対象となった場合には、SAM標準は自主的安全性向上の対策の計画(P)までしか活用できないのか、検討する。

(7) スケジュール、その他

鎌田幹事より、「SAM 分科会の概要スケジュール」(参考1)について説明が実施さ

れた。次回の分科会は、7月下旬で別途調整する。作業会については、6/17に実施する。

以上